

(様式第 2 号)

団体概要書

(その 1)

団体名	公益財団法人 大槻能楽堂	団体の種別 ※いずれかの□にチェックしてください。	<input type="checkbox"/> 公益社団法人 <input checked="" type="checkbox"/> 公益財団法人 <input type="checkbox"/> NPO法人 (<input type="checkbox"/> 認定NPO法人) <input type="checkbox"/> 非営利型法人 (公益法人へ移行予定)
代表者の役職・氏名	(ふりがな) りじちょう おおつきぶんぞう 理事長 大槻文藏		
主たる事務所の所在地	大阪市中央区上町 A 番 7 号		
設立年月	昭和 23 年 5 月	構成員数	
事業年度	4 月 1 日 から 3 月 31 日		
団体の活動目的	我が国古来の伝統芸能の振興及び普及を図るため、能楽の公演及び能舞台等の公開を行うことにより、民族的古典芸術の保存発展に貢献し、もって我が国の文化の向上に寄与すること		
活動分野	※下表の芸術文化の中から選択して記入してください。 9 能楽		
主な活動内容	世界無形文化遺産である我が国の舞台芸術「能楽」を広く一般に公開し、伝統芸能の振興及び文化・芸術の普及に寄与するため、当法人が企画した公演等を上演し、また、所有する能舞台等を貸与する活動を行っている。 ■自主公演 昭和 59 年 4 月から 34 年に亘り開催しており、全国視野に立ち出演者を選定し自主公演を開催。 人間国宝・芸術院会員など全国各地より優れた演者を招き、様々な演能・演者を鑑賞できるよう企画し、また多くの方々が手軽に鑑賞できるように低廉な入場料で設定し開催。毎年度約 15~20 公演を企画する。 ■学生鑑賞能事業 主催学生鑑賞能(約 3~5 公演)、文化庁主催文化芸術による子供の育成事業(約 10-20 公演) ■委託公演能事業(約 5 公演) 有馬能、篠山春日能等 ■能楽堂施設及び能面・能装束等の提供事業 伝統芸能の振興及び普及を目的とする団体等に当能楽堂の所有財産の提供。 (施設の貸与は年間 60 回程、稽古場として年間 140 回程。能楽の公演以外に、「能舞台」によりその特色を活かせる活動にも使用してもらっています)		
これまでの主な活動実績	昭和 10 年大槻能楽堂の前身となる、大槻清韻会能楽堂(木造)を設立。 昭和 23 年財団法人大槻清韻会能楽堂を設立。昭和 34 年大規模改装。 昭和 55 年鉄筋に改装。昭和 58 年舞台抜き。昭和 59 年能楽堂主催の自主公演能を開始。 平成 23 年内閣府より認定をいただき、公益財団法人大槻能楽堂となり、現在に至る。		
ホームページ	㊦ (URL https://noh-kyogen.com) / 無		
機関紙	㊦ (機関紙名 おもて) / 無		

「活動分野」大阪市芸術文化振興条例第 2 条にて定義する芸術文化

- 1 音楽 2 演劇 3 舞踊 4 美術 5 写真 6 映像 7 文学 8 文楽 9 能楽 10 歌舞伎
11 茶道 12 華道 13 書道 14 その他の芸術文化

寄附者へのPR等

(その2)

<p>貴団体における現在の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、能楽鑑賞者の開拓と拡大。 2、1に付随し、国内にとどまらず、国外・インバウンド向けに鑑賞の機会を設ける。 3、未来の能楽会を担う若手能楽師の育成。 4、能楽堂(国登録有形文化財)を活用した様々な催しの可能性を提供し、多様な芸術の公開の促進(貸出)。 5、万全なコロナ対策による安心安全な能楽堂のアピール。
<p>貴団体の将来展望 (何をめざしているのか、支援を受けて取り組みたいこと等)</p>	<p>◎大阪から上質な能楽公演を発信し、文化創造の場として根付く 上方・大阪の歴史の町「上町」に、脈々と受け継がれた「大槻能楽堂」。「能楽」の魅力を発信し普及する(課題1,2,3)ため、これまでの事業の継続はもちろん、能楽堂という、独特の空間・場所を活かした、能楽だけでなく、文楽・歌舞伎・落語等の伝統芸能、または現代演劇・舞踊等々、様々な文化の発信の場となりたいと考えます。(課題4)</p> <p>大槻能楽堂はこれまでも大阪・上方にある中規模能楽堂として、様々な中心的な役割を果たしてきました。北区にあった大阪能楽会館が閉館した今、劇場としての在り方も含め、その責任は重大です。</p> <p>日本が世界に誇る「能楽」はユネスコより世界無形文化遺産の第1号として認定されています。650年の時を経た今もなお人の心を映し出す「能楽」の大阪の本拠地として、現在に息づく「能楽堂・劇場」として今後も役割を果たしていきます。</p>
<p>市民等寄附者に対するPR</p>	<p>日本の伝統芸能の中心ともいえる「能楽」を次世代に繋げるべく、また、能楽堂という施設を、今後日本の芸能の魅力発信の場として活用頂くためにも、広く多くの方々のご支援を仰ぎたくお願い申し上げます。</p>